

社会学部報

◇会員の新著書

- 眞鍋一史教授（分担執筆）「日中関係の150年—相互依頼・競存・敵対—」東方書店 1994.8
- 眞鍋一史（著書）「広告の社会学」[増補版] 日経広告研究所 1994.11
- 眞鍋一史教授（分担執筆）「Japan and Peace—日本と平和—」三重学術出版会 1994
- 山路勝彦教授（共著）「Gender and Fertility in Melanesia」1994
- 高坂健次教授（分担執筆）「戦後科学技術の社会史」朝日新聞社 1994.9
- 藤原武弘教授（著書）「態度変容理論における精査可能性モデルの検証」北大路書房 平成7
- 藤原武弘教授（共著）「改訂版 社会心理学用語辞典」北大路書房 1995.2
- 藤原武弘教授（共編著）「チャートで知る社会心理学」福村出版 1994.10
- 藤原武弘教授（監訳）「都市生活の心理学」西村書店 1994.2
- 立木茂雄助教授（分担執筆）「ブリーフサイコセラピー研究Ⅲ」亀田ブックサービス 1994.7

◇海外出張

- 川久保 美智子 助教授、1994年12月26日から12月31日まで研究資料蒐集および現地見学のため香港および中国広州へ海外出張する。
- 川久保 美智子 助教授、1995年3月15日から3月22日まで国際共同研究のデータ収集および学会出席のため中国に海外出張する。
- アラン・ブレイディ 助教授、1995年3月26日から4月3日まで TESOL 第29回学会で研究発表のためアメリカへ海外出張する。
- 谷 直子 専任講師、1995年3月26日から4月3日まで TESOL 第29回学会で研究発表のためアメリカへ海外出張する。

◇研究会

- 1994年10月26日 講師 谷 直子氏 社会学部 専任講師 演題「言語と自己表現における心理的要因」
- 1994年11月30日 講師 藤原 武弘氏 社会学部 教授 演題「被服と身体装飾の社会心理—映画の役づくりにおける[被服]と[化粧]—」

学会消息

◇日本教育心理学会

9月28日～30日（京都大学）、研究発表：卜部敬康「授業中の私語に関する集団規範の調査研究」

◇日本社会心理学会

日本社会心理学第35回大会が1994年10月9日～10日、関西大学において開催された。本学からは眞鍋一史教授が「社会・文化」のセッションで「中国における価値観の変化と科学技術——『質問紙調査データ』の分析——」と題する研究発表を行なった。

◇日本グループ・ダイナミックス学会

10月22日～23日（九州大学）、研究発表：佐々木薫・卜部敬康・盧秀植「集団判断の研究」、卜部敬康「遅刻規範の形成と変容についての調査研究」

◇情報通信学会

情報通信学会の平成6年度の「国内および国際情報発信に関する研究会」は以下のとおり行なわれた。

〈第1回〉日時：10月25日（火）、場所：ホテル阪急インターナショナル、テーマ：国際化と情報、チェアマン：眞鍋一史（関西学院大学社会学部教授）、ゲストスピーカー：石森秀三（国立民族学博物館助教授）・奥田純子（コミュニケーション学院院長）・鈴木博信（桃山学院大学社会学部教授）・降旗高司郎（㈱大阪国際交流センター企画広報室長補佐兼企画課長）・マルク・レール（山口大学経済学部講師）

〈第2回〉日時：11月18日（金）、場所：電通関西支社、テーマ：情報ネットワークを考える、発表者：吉岡至（関西大学社会学部助教授）、司会：眞

鍋一史（関西学院大学社会学部教授）

◇日本世論調査協会

日本世論調査協会研究大会（第2回関西大会が1994年11月4日（金）、電通関西支社大ホールにおいて開催された。本学からは真鍋一史教授が出席し、「中国における世論調査——意義・方法・課題——」と題する研究報告を行なうとともに、大会運営委員として活動した。

◇日本社会学会

第67回日本社会学会大会が1994年11月5日（土）と6日（日）の両日、同志社大学（新町校地・尋真館）において開催された。本学からは、真鍋一史教授が「アジア社会」のセッションで「中国における日本イメージと日本情報——『質問紙調査』と『内容分析』による接近——」というテーマで研究発表を行なった。

高坂健次教授は、理論部会の司会をつとめた。

なお、役員の改選にもとづき、高坂教授は理事を退任し、新たに鳥越皓之教授が理事に選出された。

◇数理社会学会大会

1994年11月7日～8日、奈良大学にて、高坂健次教授は、シンポジウムの座長をつとめた。

◇日本広告学会

日本広告学会第25回全国大会が1994年11月24（木）～26日（土）、東京経済大学において、「広告の歴史と将来」というテーマのもとに、25周年を記念して開催された。本学からは真鍋一史教授が参加し、統一論題研究報告のセッションで「広告文化の将来——広告の国際化との関連において——」という研究発表を行なった。

執 筆 者 紹 介 （掲載順）

西 山 美 瑳 子	関 西 学 院 大 学 教 授	浅 野 仁	関 西 学 院 大 学 教 授
船 本 弘 毅	関 西 学 院 大 学 教 授	松 岡 克 尚	関 西 学 院 大 学 大 学 院 社 会 学
村 川 満	関 西 学 院 大 学 教 授		研 究 科 博 士 課 程 後 期 課 程
L・B・ベッカー	オハイオ州立大学ジャーナリズム・	山 本 誠	関 西 学 院 大 学 大 学 院 社 会 学
	コミュニケーション学部教授		研 究 科 博 士 課 程 後 期 課 程
眞 鍋 一 史	関 西 学 院 大 学 教 授	孫 良	関 西 学 院 大 学 大 学 院 社 会 学
斎 藤 友 里 子	関 西 学 院 大 学 大 学 院		研 究 科 博 士 課 程 前 期 課 程
	社 会 学 研 究 科 研 究 員	アララン・ブレイディ	関 西 学 院 大 学 助 教 授
中 野 秀 一 郎	関 西 学 院 大 学 名 誉 教 授	荻 野 昌 弘 坤	関 西 学 院 大 学 助 教 授
倉 田 和 四 生	関 西 学 院 大 学 教 授	安 秉	関 西 学 院 大 学 大 学 院
佐々木 薫	関 西 学 院 大 学 教 授		社 会 学 研 究 科 研 究 員
彭 元 順	前・韓国・漢陽大学新聞放送学科教授	赤 坂 真 人	関 西 学 院 大 学 社 会 学
高 田 眞 治	関 西 学 院 大 学 教 授		大 学 院 研 究 科 研 究 員

社 会 学 部 研 究 会 々 員

会 長	西 山 美 瑳 子						
運 営 委 員	春 名 純 人	牧 正 英	荒 川 義 子				
	正 村 俊 之	三 浦 耕 吉 郎					
会 計 監 査	中 山 慶 一 郎	宮 田 満 雄					
書 記		岡 部 衛 一 郎					
名 誉 会 員	本 出 祐 之	半 田 一 吉 博	J. A. ジョイス				
	小 関 藤 一 郎	萬 成 村 重 夫 方	中 野 秀 一 郎				
	西 尾 朗	岡 村 原	領 家 穰				
	嶋 田 津 矢 子	杉 原	清 水 盛 光				
	田 中 國 夫						
	（A. B. C 順）						
普 通 会 員	倉 田 和 四 生	杉 山 貞 夫	武 田 建				
	遠 藤 惣 一	佐々木 木 薫	森 川 甫				
	張 光 夫	船 村 弘 毅	津 金 澤 聰 廣				
	紺 田 千 登 史	村 川 満 郎	眞 鍋 一 眞 史				
	山 路 勝 彦 之	山 本 剛 四 郎	高 田 眞 治 仁				
	鳥 越 皓 次 夫	安 藤 文 四 郎	浅 野 馬 路 人				
	高 坂 健 次 夫	石 川 明 郎	對 藤 原 武 弘				
	芝 田 正 浩 二 郎	芝 野 木 茂 雄	藤 A. ブレイディ				
	宮 原 浩 美 智 子	立 荻 野 昌 弘	谷 直 子				
	川 久 保						

関西学院大学社会学部研究会会則

第1章 総 則

第1条

本会は関西学院大学社会学部研究会と称する。

第2条

本会は本学部における社会学と関連諸科学の教育・研究の推進を計ることを目的とする。

第3条

本会は事務局を西宮市上ヶ原一番町1—155 関西学院大学社会学部内におく。

第2章 事 業

第4条

本会は第2条の目的を達成するために次の事業を行う。

1. 研究会などの開催
2. 機関誌「関西学院大学社会学部紀要」などの刊行
3. 会員相互の研究・教育に関する連絡および協力
4. 本学部の教育・研究に対する協力
5. 国内外関係諸学会との協力
6. その他本会の目的を達成するために必要な事業

第3章 会 員

第5条

本会の会員は次のとおりとする。

1. 名誉会員 本会に功労のあったもので、本会の推薦するもの
2. 普通会員 本学社会学部専任の教授、助教授、講師および助手
3. 賛助会員 本会の趣旨に賛同するもの

第4章 運営組織

第6条

第2章記載の事業を行うため、本会には以下の委員、委員会等をおく。

1. 会長は当該年度の社会学部長とし、本会には以下の委員、委員会等をおく。
2. 運営委員（6名）：運営委員は普通会員の中から互選し、運営委員会を構成する。
3. 運営委員長（1名）と会計（1名）：運営委員長と会計は運営委員の中から互選する。
4. 運営委員会は第4条に記された事業の企画・運営にあたる。

なお、機関誌「社会学部紀要」の編集については運営委員会内に複数の委員をもって構成される編集委員会を置く。編集委員長は、運営委員長が兼ねることがある。

5. 会計監査（2名）：会計監査は普通会員の中から互選する。

6. 書記は社会学部事務長に委嘱する。

第 7 条

本研究会委員の任期は2年とする。重任を妨げない。

第 5 章 総 会

第 8 条

総会は定期総会と臨時総会とし、会長が主宰する。定期総会は毎年一回開催され、臨時総会は会長が必要と認めたとき、あるいは普通会員の1/2以上の要求があった場合に開催される。議決は出席者の過半数をもって行う。

第 9 条

総会の承認を必要とするものは第6条第1項のほか、次の事項とする。

1. 事業計画および収支予算
2. 事業報告および収支決算
3. その他運営委員会において必要と認めた事項

第 6 章 会 計

第 10 条

本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第 11 条

本会の経費は次の収入をもってあてる。

1. 会 費
普通会員年額 31,200円
賛助会員年額 10,000円
2. 寄付および補助助成による金品
3. その他の収入

第 12 条

本会員および本学社会学部大学院学生・大学院研究員並びに学部学生は機関誌の配布を受ける。学生の購読費は年間2,600円とする。

付 則

第 1 条

本会の事業運営に必要な諸規定は、運営委員会の議を経て別に定めることができる。

第 2 条

本会の会則変更および本会の解散、ならびに、これに伴う財産の処分等については、総会において、出席者の2/3以上の同意を得ることを要する。

第 3 条

本会則は1992年4月1日より施行する。

「社会学部紀要」編集内規

1992年4月1日施行

1. 「社会学部紀要」（以下、本紀要という）は原則として、当該年度中に2回発行する。6月末を締切日とする号は10月上旬の配布を11月末日を締切日とする号は3月25日の配布を目標とする。
2. 本紀要の企画、編集、発行は社会学部研究会「社会学部紀要」編集委員会がおこなう。
3. 本紀要に掲載される原稿の種類は以下に掲げるものとする。

- ①原著
- ②研究ノート
- ③学部および社会学部研究会主催、共催の講演会の講演原稿
- ④書評、内外の学術研究、学術集会の動向の紹介
- ⑤社会学部最優秀卒業論文賞（安田賞）受賞論文
- ⑥その他編集委員会が必要と認めた記事

4. 本紀要への投稿有資格者は社会学部研究会名誉会員、ならびに普通会员とする。なお、共同執筆者は名誉会員あるいは普通会员の推薦を受けた者、名誉会員あるいは普通会员と共同研究をおこなった者とする。

大学院学生ならびに研究員単独の論文原稿の掲載に関しては、普通会员による推薦と編集委員会の審査を経て決定する。

5. 原稿の執筆に際しては、以下の様式に従うものとする。

- ①原著については、原則として図表、写真を含めて200字詰め原稿用紙100枚以内、研究ノートについては原則として図表、写真を含めて200字詰め原稿用紙60枚以内とする。ワードプロセッサによる原稿については字数においてそれらに相当する分量とする。
- ②手書き原稿に用いる原稿用紙は研究会指定の200字詰め横書き原稿用紙とする。
- ③図表、写真等は題字、説明つきですべて本文とは別紙とし、本文中に挿入する個所を本文欄外に指示すること。

図凸版（トレース、写植代）は10,000円を限度として社会学部研究会が負担するが、それを超える分は執筆者の負担とする。

- ④原稿には和文および英文の表題をつける。また執筆者名、所属機関名についても同様とする。

6. 本紀要に発表する原著論文、研究ノートは他に未発表のもの、または学会大会等での口頭発表の主題をその学会等の了解のもとに原稿にまとめたものに限られる。
7. 外国語による原稿については編集委員会において審議の上、許可することがある。分量は日本語原稿の場合に準ずるものとする。
8. 編集委員会が依頼した外国語原稿を翻訳して掲載する場合には、その翻訳者に対し翻訳料を支払うものとする。その金額については社会学部研究会運営委員会で審議の上決定する。
9. 本紀要に掲載された論文等は無断で他の雑誌等に転載することを禁ずる。

また、執筆者がすでに外国語または日本語で発表した論文等を日本語または外国語に翻訳して掲載を希望する場合には、編集委員会において審議のうえ、それを許可することがある。ただし、この場合、版權処理に関する責任は全て執筆者が負うものとする。その場合の翻訳料は支払わない。

10. 本紀要の執筆者に対しては本誌1部と抜刷30部を無料で配布する。ただし、それ以上の抜刷を希望する場合、その実費は本人の負担とする。
11. 発行された紀要は名誉会員、普通会员、大学院学生、大学院研究員および学生に配布する。また、本紀要は上記以外の者に頒布することができる。なお、頒布料は原則として学生の購読料と同額とする。
12. この編集内規は研究会運営委員会の議を経て変更することがある。ただし、その変更はその年度の社会学部研究会総会で報告されなければならない。

＜編集後記＞

ここに、社会学部紀要第72号を「故中西良夫教授記念号」としてお届けします。中西先生については、西山学部長、船本宗教主事、村川教授が、それぞれ先生の召天を悼み、偲び、心のこもった胸を打つ文章をお書き下さいました。中西先生は、関西学院をこよなく愛し、社会学部に来られてからも、英語教育のために、学部宗教教育のために本当によく尽くして下さいました。関西学院と学生を思う心は、教授会での発言に、チャペル説教の一言一句に溢れ出て、感銘を与えるものでした。葬儀の説教を通して、これが、高等部の生徒の時に与えられた先生の信仰から極く自然に出て来ることを知りました。「信仰から神への愛が流れ出て、この愛から人に仕える自由な、喜びに満ちた生が流れ出る」というマルティン・ルターの『キリスト者の自由』の言葉を思い浮かべています。研究者としても、堅実に土台を築かれ、これから建築に取りかかる時期ではなかったかと思われ、人間的感情としては、文字通り残念としか言いようがありません。

中西先生を偲ぶ文章のほか、今回はいつもより多くの論文が寄せられました。論文、研究ノートを寄せられた会員に感謝します。また前号の後記で報告し、掲載を約束していました、ベッカー教授の学術講演を収録いたしました。いろいろな意味で、記念号に相応しく、多彩な一巻となりましたことを喜んでいきます。

編集事務の実務を社会学部事務室の速水幸一主任と染谷廸子主事に大変お世話になり、ご苦勞をおかけしました。染谷さんは、この3月で定年退職されると伺っています。出版に至るまでの行程は、事務的には煩雑で忍耐を要する難行です。それに拘らず、これまでいつも行き届いたご配慮を頂いたことを特に覚えて感謝しています。有り難うございました。お元気で。 (春名)

1995年3月1日 印刷

1995年3月10日 発行

編集発行人 西山美瑛子

発行所 関西学院大学社会学部研究会

〒662 西宮市上ヶ原一番町

関西学院大学社会学部内

電話(0798)(54)6202

印刷所 尼崎印刷株式会社

〒661 尼崎市下坂部3丁目9番20号

電話 (06)494-1122(代)

KWANSEI GAKUIN

SOCIOLOGY DEPARTMENT STUDIES

(SHAKAIGAKUBU-KIYO, KWANSEI GAKUIN DAIGAKU)

No. 72

March 1995

The Study Association of Sociology Department

KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY

Nishinomiya, Japan
